

マルメ研修を終えた今、私はなんだか壮大な映画を見終えた後のような感覚に浸っています。感動し、驚き、納得し・・・言葉では何とも言い表すことのできないような感覚です。私は日吉歯科診療所での3ヶ月間、ここにある医療が患者さんの真の利益につながる医療だ、自分もこんな医療をやりたい、と日々思い続けてきました。しかし一方で、この素晴らしい医療の形を目の前にしながらも、その形が自分の理解の中で何かぼんやりとしているような、なかなか掴むことができないような、そんな感覚の中にもおりました。そのような状況の中で本研修に参加させていただくことができました。研修を終えた今では、なぜ研修前の自分がモヤモヤしていたのか分かるように思います。恥ずかしいことではありますが、自分には確固たる歯科医療哲学が無かったのかもしれないということです。何のための歯科医療なのか、何を自分の中の軸として医療を行うのか、こうした哲学を5日間に渡って刷り込んでいただきました。

スウェーデンの歯科医療には、“人々が健康に過ごすこと”ということが当たり前の目標として存在していました。この目標を達成するために、歯科医療は患者さんと向き合っていたのです。また、医療政策や保険制度、歯科教育に至るまで徹底してこの目標に沿うように確立されておりました。幸運なことに、私はこのスウェーデンと同じく健康を最大の目標としている日吉歯科診療所に身を置かせていただいております。日々の診療の中で当たり前のように行われていたリスクアセスメントも、治療に対する考え方も全て患者利益を追求した結果行われていることであり、日吉歯科診療所で行われていることが世界基準のものであると改めて認識させていただきました。

Dan Ericson 教授のお話の中で、私が衝撃を受けた言葉があります。それは「私たちは患者の頭の中を治療している。」ということでした。私は今、U20で子供達のための歯科医療を勉強させていただいておりますが、U20で行われていることはこういうことだったのか、とハッとしました。1人1人に対してまず立ち止まり、その患者さんの生涯の健康のために、今できることは何なのか、リスクアセスメントを行い、熟考し、適切な対応を取っていくことこそが私たちがしなければならないことだったのです。その対応にはもちろん完璧な充填といった治療の場合もあるかもしれませんが、子供達の頭を治療するというところこそ、非常に大切なことなのだと気付かせていただきました。

歯科医師人生がスタートしたばかりの今、本研修に参加でき、大変感謝しております。人々の健康のための歯科医療を行うこと、このことを自分に与えられた一生の使命と思い、日々患者さん1人1人と向き合っていきたいです。日吉歯科診療所で学ばせていただいているという環境に心から感謝しながら、人々の健康そして医院へ貢献できる人材となれるよう、より一層の研鑽を積んでいきたいと思っております。